

2025年度

一般入試
A日程
(1月27日)

国語

受験生の解答する問題番号は次の通りです。

全員解答 ☐
選択して解答 ☐ あるいは ☐

注 意

- 1 試験開始の指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題冊子は24ページあります。
- 3 解答用紙は1枚です。
- 4 試験開始と同時に解答用紙に座席番号と氏名を記入しなさい。
- 5 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入しなさい。
- 6 解答の記入にあたっては、正確かつていねいに記入しなさい。
数字や英字等が判読できない場合は、採点対象外とすることがあります。
- 7 問題冊子は持ち帰ってもかまいません。

一

以下の〔一〕〔二〕の設問に答えなさい。

〔一〕 次の傍線部のカタカナを漢字に直し（一画一画でいいいに書くこと）、所定の箇所に記しなさい。

- ① 君のキオクはあてにならない。
- ② このドラマはシジツとかけ離れている。
- ③ 新たにソゼイを課すには法律の定めが必要だ。
- ④ 新たな分野をカイトクする。
- ⑤ この法律は来月よりシコウする。

〔二〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

オランダの言語学者マーク・デインゲマンセの定義によると、オノマトペは感覚イメージを「写し取る」ことばだという。しかし、ことばで「写し取る」とはどういうことなのだろうか？ ^Aこのことを考える糸口として、オノマトペが万国共通に理解されるものなのかという問題から始めたい。写真やコピー機のようにイメージを写し取ってことばにするのなら、どの言語のオノマトペでも似通っているのではないだろうか。もしそうなら、知らない言語のオノマトペでも、意味がある程度予想できそうである。

次の三つの問題に答えてみてほしい。いずれも外国語のオノマトペに関する問題である。

- ① 中央アフリカのバヤ語で「ゲンゲレンゲ」は人の身体的特徴を表す。どんな特徴だろうか？
- ② 南アフリカのツワナ語で「ニエデイ」は物体の視覚的な様子を表す。どんな様子だろうか？
- ③ 韓国語で「オジルオジル」はある症状を表す。どんな症状だろうか？

答えは以下のとおり。①「ゲングレンゲ」は痩せこけた様子、②「ニエディ」はきらめく様子、③「オジルオジル」はめまい。日本語ならそれぞれ、①「ゲッソリ」、②「キラキラ」、③「クラクラ」あたりが対応しそうである。さて、読者のみなさんは何問正解できたらうか。

一般に、オノマトペはその言語の母語話者にはしつくりくる。まさに感覚経験を写し取っているように感じられる。ところが、非母語話者には必ずしもわかりやすいとは限らない。

感覚を写し取っているはずなのに、なぜ非母語話者には理解が難しいのか。「感覚を写し取る」というのはそもそもどういうことなのか。この問題は、オノマトペの性質を理解する上でとても重要である。同時にこれは、オノマトペの問題にとどまらず、アートをはじめとしたすべての表現媒体において問われる深い問いなのである。

オノマトペが感覚イメージを写し取ることについて、もう少し深く考えてみよう。対象を写し取るものとしてもっとも直接的で写実的なのは動画や写真だろう。しかし「感覚」は、外界にあるものではなく、表現者に内在するものである。

絵画はどうだろう。写真ほど忠実ではないが、

a

対象を写し取っていると言ってよいだろう。

b

、絵画で大事な

は、表現者の「感覚の表現」であり、多かれ少なかれ絵画の中に見えるものは、表現者の「主観的感覚」である。

c

絵画は、

その抽象度において大きな差が生まれる。非常に細密に対象を切り取った具象的な絵画は、その対象が誰にでもよくわかる。他方、抽象絵画は表現者の内的な感覚の表現に重点が置かれ、特定の対象が同定できないこともよくある。

オノマトペは絵画のように「感覚イメージを写し取る」のであろうか？ オノマトペは、少なくとも当該言語の母語話者はそれぞれ意味を直感的に共有できるので、絵画でいうと、具体的な対象が同定できない抽象絵画よりは、具象絵画に近いだろう。ただし、絵画は原則、鑑賞者の使う言語や文化に関係なく受けとめられることを前提としているが、オノマトペは特定の言語の枠組みの中で理解される。

^B アイコンはどうだろうか？ そう、コンピュータ画面でアプリやゴミ箱を示したり、街中でトイレや交番などの場所を示したり、メールやSNSなどのデジタルコミュニケーションで感情を伝えたりするための、アレである。

アイコンは、アート性よりは、わかりやすさを重視した記号と言つてよいだろう。「感覚イメージを写し取る」という観点からアイコンが興味深いのは、かなり抽象化しているのに、対象がわかりやすい点である。「☺」「(> >)」のような絵文字・顔文字も、かなりデフォルメされているにもかかわらず、笑顔であることが一目瞭然である。

実は、オノマトペが注目されている大きな理由は、まさにこの「アイコン性」にある。アメリカの哲学者チャールズ・サンダース・パースは、「アイコン」ということばを「性質から対象を指示する記号」という特別な意味で用いた。噛み砕くと、「表すものと表されるものの間に類似性のある記号」のことである。絵や絵文字は、それらを構成する点や線の組み合わせが対象物に似ているので、パースの意味でも「アイコン」である。ジュエスチャーの多くもアイコンである。ステーキを食べるジュエスチャーは、実際にナイフとフォークを持つていなくとも、ステーキを食べる動作に似ている。

この定義によれば、オノマトペはまさに「アイコン」である。表すもの（音形）と表されるもの（感覚イメージ）に類似性があると感じられる。日本語の母語話者であれば、「ニャー」というオノマトペはネコの声に似ていると感じる。音以外を表すオノマトペであっても、たとえば「ピカピカ」という音連続と明るい点滅は似ている気がするし、「ぶらり」という音形も気軽なお出かけにいかにも似合っているように感じられる。音形が感覚にアイコン的につながっているという点で、オノマトペは「身体的」である。

^C しかし、ここで、メールやSNSで使うアイコンや街中で見るアイコンと、少なくともパースの定義では「アイコン」とされるオノマトペがどのように違うのかもちょっと考えてみたい。アイコンは視覚的な対象を、視覚の媒体で表すのが普通である。「☺」という絵文字は笑顔という視覚情報を表す。私たちは、アイコンがもとの対象と「似ている」という感覚を持ち、その感覚からアイコンの指し示す対象が何かを認識できる。とくに漫画的な表現では、音や手触り、心情といった目に見えない要素までも比喩的に視覚化すること

が可能である。たとえば、「M(・□・:)」という顔文字では、心的なショックが「M」のギザギザで表されている。いずれの例においても、アイコンは視覚的な記号である。

他方、オノマトペが用いるのは視覚ではない。音声という聴覚的要素である。音と対象が「似ている」と感じることで、音から対象を認識し、イメージすることができ。しかし、視覚的なアイコンと違い、音では、対象となる事物の全体像は写しにくい。たとえば、アイコンでイヌやネコを表すときには、「」「」のようにその全身の形を写し取ることが可能である。一方、「ワンワン」や「ニャー」といったオノマトペは、イヌやネコの鳴き声を写し取ることが出来るもの、これらの動物の全体の形を写し取ることにはできない。「ギクツ」というオノマトペも、強い驚きを写してはいるものの、「M(・□・:)」という顔文字が表すような表情や汗といった要素までは写しきれない。

つまり、視覚的アイコンは、一度に複数の要素を写し取ることができる。輪郭も写し取れる。そのため、物事の全体を、場合によってはその詳細まで写し取ることが可能となる。それに対し、音声で写すことができるのは、基本的に物事の一部である。残りの部分については、「ワンワン」ならイヌ、「ニャー」ならネコ、「ギクツ」なら人に知られたくないことを知られた場面、というように連想で補うことになる。

このような連想は、「換喩(メトニミー)」と呼ばれる。国語の時間に詩の表現技法として習う概念である。換喩は、

D

。「鍋が食べたい」といえば、料理を作るための器である鍋でもって、その中身の料理を指す。「ワンワン」や「ニャー」も、イヌやネコを特徴づける鳴き声をヒントに、その鳴き声の主の情報を読み込む。「ギクツ」はやや抽象的であるが、驚いた拍子に体がわずかに動く様子(あるいは関節が鳴る音)を音で模すことで、その動きの原因となった気まずい驚きを換喩的に表している。換喩的思考ができるからこそ、人間の言語はオノマトペを発達させられると言ってもいいだろう。^E

さて、オノマトペが物事の一部しか写せないのには、オノマトペの根本的性質が関わっているものと思われる。「オノマトペは言

語である」という性質である。言語は、単語を組み合わせてさまざまな物事を表す文・発話を構築する。絵文字・顔文字が物事の全体を詳細に写し取る場合には、「」や「」のようにそれだけ複雑な形式が必要となる。同じことをオノマトペで行うとしたらどうだろう？

我々の声というのは、原則、一度に一つの音しか発することができない。したがって、複雑な形式を作る場合は「ニャー」や「ギクツ」のような音数では足りず、長ったらしい発話が必要となってしまうであろう。複雑で長いことばは覚えにくいだけでなく、コミュニケーションに支障をきたす恐れがある。言語の構成要素として効率のよい発話をするためには、オノマトペは簡潔である必要があるのである。簡潔であれば、写し取ることができる対象は限られる。オノマトペが物事の一部分しか真似ることができないのはそのためであろう。

（今井むつみ・秋田喜美『言語の本質——ことばはどう生まれ、進化したか』による）

【設問】

一 傍線部 A「このことを考える糸口として、オノマトペが万国共通に理解されるものなのかという問題から始めたい」とあるが、この「問題」を解くことが「糸口」となるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア オノマトペが一般的にはその言語の母語者にはしっくりきて、非母語者にはわかりにくいことを確認することで、それが何を「写し取る」のかの答えを得られるため。

イ オノマトペが特定の言語の枠組みの中で理解されるものであることを確認することで、その「写し取る」ということが写真やコピー機とは異なるという手掛かりが得られるため。

ウ オノマトペが写真やコピー機のようにイメージを「写し取る」ものではないことを確認することで、その「写し取る」対象に視覚的な様子が含まれないことを明確にするため。

エ オノマトペが知らない言語のものでも意味がある程度予想できることを確認することで、それが「写し取る」ことに言語が介在しないことを論の出発点にできるため。

二 空欄

a

↓

c

箇所に記しなさい。

に入るべきことばの組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の

ア a それでも——b すなわち——c だからこそ

イ a まさに——b それゆえ——c つまり

ウ a だからこそ——b たしかに——c しかし

エ a やはり——b しかし——c したがって

三 傍線部B「アイコンはどうだろうか?」とあるが、「アイコン」に関する次の説明文1～4の正(○)・誤(×)の組み合わせとして最も

適切なものを、後のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

1 絵画よりも抽象化されているにもかかわらず、対象がわかりやすい。

2 表すものと表されるものの間に、類似性のある記号である。

3 対象との類似性を視覚的に表すという点で、オノマトペと共通している。

4 ジェスチャーの多くは、パースの定義ではアイコンであるといえる。

ア 1 ×——2 ○——3 ×——4 ○

イ 1 ○——2 ○——3 ×——4 ×

ウ 1 ×——2 ×——3 ○——4 ×

エ 1 ○——2 ×——3 ○——4 ○

四

傍線部C「メールやSNSで使うアイコンや街中で見るアイコンと、少なくともパースの定義では『アイコン』とされるオノマトペがどのように違うのか」とあるが、アイコンはどのような点でオノマトペと異なるのか。解答欄にあうように本文中から十五字以内で抜き出し、所定の箇所に記しなさい（句読点・記号も字数を含む）。

五

空欄

D

に入るべきことばとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 同音異義を利用して、ひとつの語に二つの意味を持たせる

イ ある事物を過度に大きく、または小さく形容する

ウ ある概念を、それと近い関係にある別の概念で捉える

エ たとえる概念とたとえられる概念を、直接比較して示す

六

傍線部E「人間の言語はオノマトペを発達させられると言ってもいい」とあるが、それはなぜか。次のア～エの中から、最も適切なものを一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 人間は、オノマトペが写し取った対象の一部から、残りの部分を連想によって補うことができるから。

イ オノマトペは感覚の一部を写すものであり、人間の感覚はオノマトペのみが表すことができるものだから。

ウ 言語を用いる人間にとっては、オノマトペは対象の輪郭や詳細までを写し取ることができるものだから。

エ オノマトペは言語の音声で対象を極度に抽象化するが、人間はそれを確実に具象化し直すことができるから。

定の箇所^①に記しなさい（句読点・記号も字数に含む）。

【下書き用】

70

二

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

グローバル化が世界を席巻^①し、世界共通のビジネスモデルや教育モデルが示される一方で、文化の衝突は思わぬ場所で起きている。その衝突は深刻な結果を引き起こしているが、その実態や原因は目に見えないことが多い。顕著な一例は、小論文や作文の型に現れる思考の型の違いである。例えばアメリカに留学した多くの学生は、英語能力の査定試験で高等教育を受けるに足る語学力を習得していることが証明されても、論述試験で非常に低い評価を受けたり、時には「理解不可能」、「評点不可能」として突き返されたりすることが実際に起きている。ところが、当該社会で教えられている小論文の型を知り、それに沿って書くことで、評価は「理解不可能」から「A評価」へと三段跳びに上がるのである。これは各国の「書く型」の違いが「論理の型」の違い、ひいては「思考の型」の違いを生むために起こる文化的な衝突を示している。しかし「論理的であること」が多くの小論文の指南書が指摘するように単に証拠を示したり、帰納や演繹^{えんえき}、因果律を使って説明したりすることだと受けとめると、この衝突はその原因が全く見えないまま、能力の高低の問題にすり替えられてしまう。小論文の型に現れる「スタイル（様式）」の違いが、「論理的な思考」という近代社会で価値ある思考法を通して、学力や能力に転換されるのである。

では、書く型にはスタイルの違いがあるといっても、実際のどのよう^Bに、そしてどの程度違うのだろうか。以下は、同じ四コマの絵を日本とアメリカの小学生に見せて、説明してもらった実例である。実験の参加者は日米それぞれ小学校最終学年の四学級の児童、日本一四四名（小学校六年生）とアメリカ八二名（小学校五年生）である。両国の大学生に同じ課題で作文してもらうと、小学生とほぼ同じ結果が持続して現れている。

（絵の主人公の名前は日本ではけんた、アメリカではジョン）

【日本】けんた君はねないでテレビゲームをしていてそしたらあいじかんまえになってしまっていそいでユニホームにきがえてバスにのったところまちがえてそしてあいじかん^Aにまにあわなくてせんぱつでピッチャーができませんでした。

【アメリカ】私のジョンの一日に対する意見は、一日の初めから終わりまで彼はイライラした一日を過ごしたということです。その日は彼にとつてとても皮肉な日^②でした。まず彼はビデオゲームを長くやりすぎたので、それが悪い出来事の連鎖反応を引き起こしたのです。彼は遅く起きたので精神的にパニック状態になり、実際それが間違ったバスに乗る原因となり、それが野球の試合の練習におくれる原因になったのです。要するに、彼は悪い一日を過ごしました。

これらの実例が示すように、日本では出来事が起こった順番に時系列でものを述べる強い傾向があるのに対して、アメリカではやはりこの時系列型が一番多いのだが、三割強の児童は例のように「エッセイ」と呼ばれるアメリカ式の小論文の型で書いた。エッセイでは、最初に結論となる主張を述べ、次に主張を擁護する事実を述べて、最後に最初の主張を別の言葉で繰り返す。先の四コマの絵の実験では、最初に「こんな一日でした」という結論を述べることで、その後に続く絵の出来事はその理由として、あるいは結論となる主張を支える証拠として述べられている。そして最後に主張を繰り返して結論とするのもエッセイの構造的な特徴を反映している。エッセイでは「主張」と主張を支持する「事実」と主張の繰り返しという型を踏まえてはじめて「論理的である」と評価される。それに対して、日本の児童は出来事すべてを実況中継のように述べたり、主人公の内心を描写したり、最後に教訓を述べて全体を「教訓のお話」にするタイプが多く、「時系列による描写」と「物語」が自然で腑^③に落ちる説明と捉えられている。

さらに、同じ絵を見て絵の結末の原因を説明する「理由付け」の課題においても日米では顕著な違いが現れた。四コマ目の原因を述べるのに、日本の児童は絵の最初から最後までを述べて「説明」と「理由付け」を区別しなかったのに対して、アメリカの児童は、結果に最も強い影響を与えた出来事だけを述べて他をすべて省略したのである。

これらの日米の違いは、説明や理由付けの方法といった書き方の「スタイルの違い」である。しかし授業で「なぜ(why)」と質問することが多いアメリカの学校で、もし日本の児童が親の転勤などでアメリカの学校へ行き、時系列で最初から最後まで答えたとなると、「因果関係を理解していない」、「分析ができない」、果ては「質問すら理解できない」という評価を受けてしまうだろう。ある国では普通の受け答え

をしているはずの児童生徒が、ところ変われば、その語り方によって劣等生どころか知的発達の遅れの疑いすらかけられる可能性があるのである。

これが単に「言語の違い」の問題でないことは、応用言語学者のロバート・カプランがその画期的な研究で証明している。カプランは、英語の習熟度が上がっても留学生のエッセイの習熟度が上がらないことに長い間疑問を持っていた。そこで、小論文に「必要な要素」とそれを「並べる順番（パラグラフの順番）」という二つの指標をもとに世界三〇カ国以上から来た留学生の論の展開方法を以下に示す類型に分けてみた。カプランが示したのは、言語（文法）の違いではなく、レトリック（配置／論文構造）のレベルでの論理展開の違いである。

カプランの分類によれば、英語は直線的な展開、ヘブライ語やアラブ語など西アジアを中心に使用されるセム語は類似する事柄を詩の対句のように並行させる展開、東洋は渦巻きのように遠回りしながら間接的に主題に近づく展開、フランス語に代表されるロマンス語は余談を交えて^④紆余曲折しながら進む展開と分析されている。論理的かというと、英語圏の直線的な論理展開が自明で普遍的なものと受けとめられているが、カプランの類型においては、いくつかある型の一つにすぎないということが分かる。

カプランの貢献は、論理的であると感じる根拠を三段論法に代表されるような形式論理ではなく、論文に必要な要素が読み手の期待する順番に並んでいることから生まれる感覚であるのを示したことだ。逆に非論理的だと感じる根拠は、読み手が期待する考えの道筋の順番が破られた時、すなわち読み手の文化圏のレトリック（論文構造）に反した時である。つまり、^D読み手と書き手の間の合意によって（論理的）であることが決められているのである。

作文や小論文の教育で行われているのは、^E「書く型」を通じて当該社会で使われている「思考の型」を教えることである。もちろん共通の型として世界で教えられている基本の型は存在する。例えば「物語」、「描写」、「説明」、「説得」は書き方の基本的なジャンルとして世界の多くの国で教えられている。しかし、学力や能力を測る媒介としての小論文は、西洋としてひとつに括られるアメリカとフランスを比較しても大きく異なるのである。また、アメリカやフランスは学校教育における小論文の役割が大きな国だが、論述によって学力や能力が測られない

国では、小論文に現れる論理よりも、社会の中で「納得しやすい」作文の型が広く流通している場合もある。日本の「感想文」やイランの「エンシャー」と呼ばれる作文の型はその一例である。これらの作文の型は古典文芸にその範を仰いでいる。

こうした文化の違いが顕著に現れるのは、国語教育と歴史教育においてである。国語でどのような作文・小論文の型を習うのかにより、作文教育と作文が伝える思考の型——考える方法、問いに答えを出す手続き——には国によって大きな違いが見られる。

さらに歴史教育では、過去の語り方に出来事の解釈の方法が現れるだけでなく、その語りと解釈法が、「未来の語り方とその解釈の方法」に一貫性をもつて反映されている。そのように思い描かれる「未来の形」が、現在の選択肢——何が可能で何が不可能なのか——と合理的な行為の判断を規定する。

歴史教育は、過去の出来事のみならず、いかなる時間・空間の範囲と構造でものを考えるのか、歴史を動かす主体は何なのか、いかに因果関係を捉えるのかといった「時間・空間・因果律」などの思考する際に必要不可欠な範疇^{はんちゆう}を、現実世界を理解するための土台として教えているのである。推論とは、「既知の事柄を元にして未知の事柄について予想し論じること」である^Fと定義されている。歴史教育で教えられているのは、この推論の方法であり、この推論の方法にも四つの基本パターンがある。推論といえば、帰納や演繹が代表的な方法として定型化されているが、特定の領域と原理に特徴的に見られる推論の型を歴史教育から抽出していくと、作文・小論文に見られる〈論理〉と歴史教育における〈推論〉の方法には一貫性があり、各国の書く・語るパターンに通底する独特の思考表現スタイル——文化に根ざした〈論理〉と〈推論〉の型とその表現法——を見出すことができるのである。

(渡邊雅子^{わたなべ} 『「論理的思考」の文化的基盤——4つの思考表現スタイル』による)

【設問】

一 二重傍線部①～⑤のことばの意味として最も適切なものを、それぞれの選択肢ア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しな
せよ。

①「席卷」

- ア あまねく広がって周囲から尊敬されること
- イ いかなる状況でも主席の位置に居すわること
- ウ 周りを巻き込んで騒動や対立を引き起こすこと
- エ 広く圧倒的に自らの勢力範囲に収めること

②「皮肉」

- ア 自暴自棄で酷い目にあってしまうこと
- イ 予想や期待に反してうまくいかないこと
- ウ 意地悪で人間味が不足していること
- エ 謙虚な気持ちがなく反省をしないこと

③「腑に落ちる」

- ア 事実でないことを、本当だと信じこんでしまうこと
- イ 誰かのおかげであると思って、心から感謝すること
- ウ 頭では理解できないことを心のみで感じとること
- エ その事柄や原因について、十分に納得できること

④「紆余曲折」

- ア 結論にたどり着くまでに様々に変化すること
- イ あえてまわりくどく、難解に表現すること
- ウ 解決が困難な問題にひたむきに取り組むこと
- エ 単純明快でなく、深遠な説明を用いること

⑤「媒介」

- ア 目的を果たすための便利な道具となること
- イ 用途の違う他のもので代用すること
- ウ 二つのものの間で両者を取りもつこと
- エ それぞれを比較する際に基準となること

二 傍線部A「その原因」とはどのようなことか。解答欄にあうように本文中から四〇字以内で抜き出し、その始めと終わりの五字を所定の

箇所に記しなさい（句読点・記号も字数に含む）。

三 傍線部B「同じ四コマの絵を日本とアメリカの小学生に見せて、説明してもらった」実験の結果や結果に対する説明を述べた次の文章1

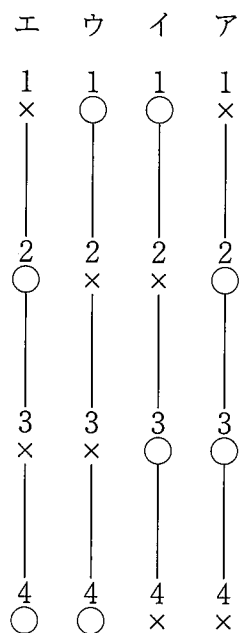
4の正(○)・誤(×)の組み合わせとして最も適切なものを、後のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

1 日本では出来事をありのままの順序で時系列的に描写するのみであり、他者に納得されにくい型が共有されている。

2 アメリカでは自らの主張、それを支持する事実、主張の繰り返しという型が日本よりも多く用いられ、その型をふまえてはじめて論理的だとみなされる。

3 日本では時系列による描写と物語の型が用いられる傾向が強く、それが相手に納得されるものと捉えられている。

4 アメリカでは自らの主張を擁護する証拠として出来事が説明されるため、事実が恣意的にまげられる傾向が強い。



四

傍線部C「ある国では普通の受け答えをしているはずの児童生徒が、ところ変われば、その語り方によって劣等生どころか知的発達の遅れの疑いすらかけられる可能性があるのである」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 日本の児童生徒には「説明」と「理由付け」を区別する能力がないために、「理由」に関して問われてもその質問すら理解することができないから。

イ アメリカでは「理由付け」についての質問をされれば、結果に最も近い影響を与えた出来事を省略して答えることこそが学力の高さとみなされるから。

ウ 「なぜ」と聞かれることがない国では、受け答えはすべて時系列で最初から最後までを答える文化があるが、それが実際には相手に納得される理由とはなっていないから。

エ ある国と別の国との書く型・語る型に現れるスタイル（様式）の違いが、学力や能力の高低の問題に転換されてしまうことがあるから。

傍線部D「読み手と書き手の間の合意によって〈論理的〉であることが決められている」とはどのようなことか。解答欄にあうように5

【下書き用】

[illegible]

傍線部E「『書く型』を通じて当該社会で使われている『思考の型』を教える」とはどのようなことか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア それぞれの社会の古典文芸に範を仰ぐ文章の型を教育することで、その社会で通用する新たな価値観を生み出して伝授すること。

イ 作文・小論文の型を利用することによって、グローバル社会に適した論理的な思考力を身につけさせるということ。

ウ 文章の型を教育することによって、それぞれの文化に根ざした、考える方法と問いに答えを出す手続きとを伝えるということ。

工 それぞれの国の文化に即した内容を作文や小論文の主題に取り込むことで、その社会における一般的な考え方を教育するというこ
と。

七 傍線部F「歴史教育で教えられているのは、この推論の方法」であるとあるが、そのように言えるのはなぜか。最も適切なものを、次の

A～Eの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

A 歴史教育が教える過去の出来事は現在から見れば未知のものであり、既知のものである現在から過去に何が起きたのかを推測するということが推論であるということが出来るから。

I 歴史教育が教えるのは、過去の出来事がなぜ起きたのかをどのような時間・空間・因果律で考えるのかという解釈の方法であり、その方法は現在から未来を予想する方法に反映されるものだから。

ウ 歴史教育には、過去の出来事とともにそこから引き出される「教訓」を「物語」として語る責務があり、その「教訓」によってあるべき「未来の形」を提示して人々を導くという役割があるから。

E 歴史教育に現れる過去の語り方における出来事の解釈の方法は、帰納と演繹によって定型化された普遍的なものであり、それがあらゆる文化に通底する合理的な行為の判断を想定可能にするものであるから。

三

次の文章は、『ほつしんしゅう発心集』の一節である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

(注1) ひじり三河の聖といふは、おほえのさだもと大江定基といふ博士、これなり。みかはのかみ三河守になりたりける時、もとの妻めを捨てて、①たぐひ類なくおほえける女をあひ具して下りけるほどに、国にて女、病を受けて、つひにはかなくなりければ、嘆き悲しむこと限りなし。れんぼ恋慕のあまりに、取り捨つるわざもせず、日ごろ経るままに、なりゆくさまを見るに、いとど憂き世のいとしさ思ひ知られて、心を発はしたりけるなり。

Aかしら頭おろして後、こつじき乞食歩きけるに、我が道心はまことに発りたるやと、こころみんとて、妻のもとへ行きて、物を乞ひければ、女これを見て、「我に憂き目見せし報むくいに、Bかかれとこそは思ひしか」とて、うらみをして向ひたりけるが、何ともおぼえざりければ、「御徳に、仏になりCなんずること」とて、手をすり、Dよろこびて出でにけり。

さて、(注2)ないきかの内記の聖の弟子になりて、(注3)にようりんじ東山如意輪寺に住む。そののち、(注4)よかは横川に上りて、(注5)ぐあんしんそうづ源信僧都に会ひ奉りてぞ、(注6)のり深き法をば習ひける。かくてつひに唐へ渡つて、いひ知らぬ験③しるしどもあらはしたりければ、大師の名を得て、まんろう円通大師とぞ申しける。往生しけるに、仏の御迎への樂がくを聞きて、詩を作り、歌を詠まれたりける由、唐より注し送りて侍り。

(注7)しやうかはる笙歌遙かに聞ゆ孤雲の上 (注8)しやうじゆらいがう聖衆来迎す落日の前

雲の上にはるかに樂がくの音すなり F人Gや聞くらん ④ひが耳かもし

(『ほつしんしゅう発心集』より)

(注1) 三河の聖——じやくしやう寂照(？〜一〇三四)。大江定基は出家前の俗名。

(注2) 内記の聖——たしげのやすたね慶滋保胤(？〜一〇〇二)。

(注3) 東山如意輪寺——京都市左京区如意ヶ嶽にあった寺。

(注4) 横川——比叡山延暦寺の三塔の一つ。

(注5) 源信——九四二〜一〇一七。

(注6) 法——仏の教え。

(注7) 笙歌——管楽器の笙に合わせてうたう歌。

(注8) 聖衆来迎す——極楽浄土から菩薩らが迎えにやって来る。

【設問】

一 二重傍線部①～④の語句の意味として最も適切なものを、それぞれの選択肢ア～エの中から一つずつ選び、その記号を所定の箇所記しなさい。

① 「類なくおぼえける」

ア 全く忘れようもない

イ 非常に似ている

ウ たとえようもないほど美しい

エ この上なく愛しく思われた

② 「はかなくなりければ」

ア 衰弱してしまったので

イ 亡くなってしまったので

ウ 出て行ってしまったので

エ 頼りなくなってしまうので

③ 「駿」

ア 奇跡

イ 前兆

ウ 標識

エ 才能

④ 「ひが耳」

ア ねたみそねみ

イ 聞きまちがい

ウ 地獄耳

エ 耳障り

二 傍線部A「頭おろして」とあるが、ここに至るまでの経緯の説明として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所

定の箇所に記しなさい。

ア 三河の聖は、かつての妻を裏切ってしまったことに罪悪感を抱き続け、仏道修行によって罪を償うことを選んだ。

イ 三河の聖は、愛する女たちとの別れを繰り返したために人間関係に絶望して、世間から離れて生きることにした。

ウ 三河の聖は、三河に連れて行った女の姿が変わっていくのを見て、ますます俗世が嫌になって出家を決意した。

エ 三河の聖のかつての妻は、三河の聖に捨てられた辛さのあまりに、煩惱を振り払おうと考えて尼になっていた。

オ 三河の聖のかつての妻は、自分から三河の聖を奪った女を恨みに思い、無理やり女の髪を剃ってしまった。

三 傍線部B「かかれとこそは思ひしか」の解釈として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

い。

ア こうして訪ねてくると信じていた

イ もっと早く会いにくると思っていた

ウ 女とは別れるだろうと考えていた

エ 出家の意志は本物だと期待していた

オ このように困窮せよと望んでいた

四 傍線部C「な」と文法的に同じものとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア や、な^レ起こし奉りそ。

イ うちうちにのたまはせよ^レな。

ウ まめまめしきものは、まさなかり^レなむ。

エ もののあはれも知らずなりゆく^レなむ、あさましき。

オ いっし^レか梅咲かなむ。

五 傍線部D「よろこびて出でにけり」とあるが、ここでの三河の聖の心情はどのようなものであったか。その説明として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア かつての妻が自分に捨てられた悲しみから立ち直っており、妻を心配していた気持ちもやわらいで、安心している。

イ かつての妻から恨み言を言われても気持ちが動じなかったため、自らの仏道に専念する心の強さが確認できて、満足している。

ウ かつての妻に仏道への思いが深いことを認められたため、これで自分も仏になれると思い、かつての妻に感謝している。

エ かつての妻が自分のことを憎み続けていると思っていたが、実はなんとも思っていなかったのだと知り、うれしく思っている。

オ かつての妻は物乞いの姿をしていても自分であることが一目でわかり、今でも覚えていてくれたのだとあって、感激している。

六 傍線部E「奉り」の敬意の対象として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 三河の聖 イ 妻 ウ 内記の聖 エ 源信僧都 オ 仏

七 傍線部 F 「なり」と文法的に同じものとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 三月にもなりぬ。

イ 女もしてみむとてするなり。

ウ 鳥の音も聞こゆなり。

エ 壺つぼなる御薬奉れ。

オ 月の都の人なり。

八 傍線部 G 「人や聞くらん」を現代語に訳し、所定の箇所に記しなさい。

九 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 内記の聖は三河の聖にとって唯一の師であった。

イ 三河の聖は東山の如意輪寺で出家した。

ウ 源信僧都は大師の称号を得ていた。

エ 三河の聖は唐の地で没した。

オ 亡くなった三河の聖を偲んで漢詩と和歌が作られた。

十 『発心集』を著した人物の他の作品を次のア～オの中から一つ選び、その記号を所定の箇所に記しなさい。

ア 『枕草子』

イ 『方丈記』

ウ 『徒然草』

エ 『折たく柴の記』

オ 『玉勝間』